【症例】65 歳女性
【主訴】体の冷え
【現病歴】平成 19 年 6 月某日、山にハイキングに出かけて雨に 2 時間ほどうたれ体が冷えきった。それから冷性となり、いくら温めても両足が冷えて仕方がなくなった。夏でも布団を被って靴下を履いても冷える。某国立大学病院や大病院の循環器・神経内科などで精査を受けるが明らかな異常は認められなかった。
【既往歴】生来健康
【問診】冷えは特に足にひどい。歩くと少しは温まるが、15 分程度ですぐに冷える。元来はやや熱がりであった。体が冷えるようになってから食欲も低下。体重は 5kg/6ヶ月低下。冷たいものは飲みたくなくなった。関節痛なし。尿は薄く夜間に 1 回は尿意で目が覚める。やや疲れる。労作時息切れはない。月経は 52 歳で閉経。月経困難はなかった。排便は問題なし
【西洋医学的所見】
一般診察所見に異常なし　足背動脈：触知可能
一般採血所見に異常なし　ABI：正常　　甲状腺機能：正常
【望診】身長 152 センチ　体重：44kg
見た目は元気　色白　白髪　眼は軽度のギラツキあり
皮膚はやや乾燥傾向　足：蒼白
<舌診>舌体　やや淡　舌苔：やや白苔　やや水滑
【聞診】声色はやや高い　多弁
【切診】
両足は触ると冷たい
<脈診>　全体にやや沈　両側尺脈：やや虚　特に右尺脈が弱い
左肝脈はやや細
<腹診>　腹部の温度の低下は顕著ではない　臍下・臍右の悸あり
少腹不仁はハッキリせず